

第2回基町地区活性化計画協議会の協議結果

1 日時等

日 時：令和元年10月28日（月）19時00分～20時00分

場 所：基町中央集会所

出席者：徳弘委員、瀬戸口委員、中村委員、有馬委員、植田委員、本田委員、山本委員、橋場委員、今富委員、石田委員

報道関係：6社（広島テレビ、ホームテレビ、テレビ新広島、中国新聞、中建日報社、ひろスポ）

傍聴者：11名

2 協議結果

(1) 議題について

- 議題1 新しい活性化計画の骨子について
- 議題2 新しい活性化計画の取組について
- 議題3 活性化計画改定等のスケジュールについて

資料1～3により説明した。

（石田委員）

- ・計画の期間について、概ね30年先とあるが、長いのではないか。

（広島市）

- ・ビジョンにて概ね30年後の将来像を見据えており、ビジョンに基づき具体的な活性化計画を、5年を短期、10年を中期として組み立てている。

（植田委員）

- ・基町の現状について、この5年間取組をしてきて、子供が減り、外国人は増えている。5年間でできなかったのに、行政は今後どうやって実現するつもりなのか。また同じようになるのではないか。

（広島市）

- ・外国人の比率については、市営住宅では外国人の入居を制限することはできないので、どのようにバランスを保っていくかは、大きな課題であり、難しいと思う。基町小学校の児童が減少していることについては、教育の充実が重要であり、基町小学校では、個に応じたきめ細かい教育を進めていくことで魅力を上げて、基町小学校に児童が増えるようにしていきたい。

（今富委員）

- ・この問題は、一朝一夕に解決するものではないと認識している。この3つは密接に絡み合っており、1つだけを解決しようとしても解決しない。
- ・若者の入居を促進し、その入居者が定住し、地域で活躍する。そうやって初めて、多様な世代が共存する基町になると思う。そのような道筋を示すことが重要と考えている。
- ・まずは若者の入居を促進し、基町小学校に入ってもらおう。そこに注力していく。

(中村委員)

- ・平成30年からやっていることの実績を示さないから、このような意見が出る。短期間であっても、実績を示し、今後こうすればどう進んでいくということを示さないから、やっても同じだと言うのは当然だ。

(広島市)

- ・現行の活性化計画ではいろいろ取組をしてきたが、数字が上がらないところもある。今回の計画では、数値などの目標を設定し、進行管理していくことにしている。

(徳弘座長)

- ・分かりやすく言えば、外国人については、歯止めをかけてもらいたいということ。公営住宅法は分かるが、基町の意見として考えていただきたい。

(山本委員)

- ・PTA活動において、外国にルーツを持つ児童の保護者との意思の疎通が図れず、苦勞しており、6年前より切迫している。
- ・先生方の働き方改革もあり、通訳を学校の先生方をお願いすることも難しい。また、中国語と日本語が話せる保護者をお願いすることも、仕事があり難しい。コミュニケーションに非常に苦勞している。外国人相談窓口は、日々動いている状況に対応しているとは思えない。そこに費用をかけるのであれば、もっと違うことを考えてほしい。
- ・日本人だけを入居というのが難しいのであれば、違う方向で考えて、外国の方でも、基町小学校に子供を預けて、自分もPTAとして保護者と繋がっていきたいという思いを持つ保護者を入れてもらいたい。基町に愛着を示す人を選定することは難しいのか。基町に愛着を持ってもらえる方は、人種を超えて必要な人材だと思う。

(植田委員)

- ・特例的入居がまだ55戸が埋まらないのは、若者が基町に来たくないからではないのか。入居が進まない原因をはっきりするべきではないか。

(中村委員)

- ・入居の窓口である中区建築課と基町住宅担当との連携が取れていないのではないのか。なぜ応募がないのか、原因は中区に聞いたほうが早いのではないのか。中区の窓口の情報を基町住宅担当は把握しているのか。
- ・ネット上では、まだ原爆スラムという言葉が出ている。
- ・体育祭では、若者が参加してくれて、雰囲気良くなっていると感じた。これを広めるには、行政が内部の情報を共有して、情報を発信してほしい。

(今富委員)

- ・入居のことに限らず、中区建築課とは生活上の問題についてもしっかりと連携を図っていかなくてはいけないと思っている。
- ・特例的入居者が20世帯入居しており、意見を聞いたところ、入ってよかったという意見が多い。この良い情報をいかに発信していくかが重要だと考えている。
- ・また、この募集を知ったきっかけを調査したところ、口コミが多かった。住民の方などからの口コミは、重要な広報源と認識している。

(瀬戸口委員)

- ・とにかく人を入れてもらいたい。居住者の活性化が大事と前から言っている。
- ・体育祭は、若者が参加してくれて良かった。感謝する。

(本田委員)

- ・若者のお手伝いには感謝している。
- ・しかし、その後のお近づきになろうと努力しているが、なかなか進まず、反省会に来たのは2名だけだった。即戦力として入居しているのだから、こちらも期待するので、押していくが、それが重圧になっている。特例的入居者にはあまり期待しないほうがよい。
- ・毎年度50戸の入居は続けられないといけないが、結果が出るのは3～5年後だと思う。
- ・体育祭への参加も、市がやるべきではなく、自然に自治会から入ってくるのがよい。
- ・一番大事なのはUターン世帯。それと30年、40年変わらない入居資格だ。これを変えるところになぜ目を向けないのか。国有地であることを理由に、市は未だに打破できていない。
- ・外国人がこれ以上増えると、基町は潰れるという危機感を持っている人も多い。それを理由に、ストップをかけられないのか。
- ・小学校の教育は、日本語の教育をやっているだけで、レベルアップではない。そんなことをしている基町小学校に入れたいと思う親はいない。
- ・子供は教えなくても覚える。親に日本語を教える場所を作らないといけない。親が何もできないのに増やそうとする意味が分からない。
- ・サッカー場の話が無ければ、市がこちらを向くことは無く、5年前の計画はあったが、そのままだっただろう。
- ・それは良くなることだからよいが、サッカー場の場所などによっては、中層の建替えなど重なるところもある。

(有馬委員)

- ・外国人について、できるとは思わないが、入居時に地域と共に生きるという意味を確認することはできないか。特例的入居者のように一般入居者もできないか。
- ・地域が活性化しているかどうかは、住民の感じ方ひとつだ。高齢化が進む地域に高齢者に向けての施設というハード面の拡充も大事だが、ソフト面が大事であり、住む人の心の豊かさや安心感に尽きる。それは、人と人とのつながりの中で生まれてくるもので、最終的には住民次第だ。
- ・若者の入居など行政がやっていただいているが、その若者が地域に根付くような仕掛けや環境づくりを行政といっしょになってやっていきたい。

(中村委員)

- ・17アパートの建替えについて、検討中で、令和2年度に入居戸数をどうするなど説明があったが、漠然としすぎている。市の計画では33年には設計となっているはずなのに、まだ戸数が決まらないとは、非常に不満だ。その辺りの整合性を、充分話し合いをさせてもらいたい。
- ・ここに出した数字的なものを、どういうサイクルで回していくのか。日程的に、どこでどうなって、こうするなど、なぜそれを示さないのか。これでは市がせっかくやっていることも伝わらないので、残念だ。PDCAを示さないと、いつまでたっても計画倒れになる。
- ・1～16号棟の4階に住む高齢者を1階に住替えさせてやってほしい。この際、何歳以上は住替えできるとかやってもらえないか。

(徳弘座長)

- ・17アパートの建替えは、1階に店舗もあり、大きな問題だ。早く住民説明会などで住民に情報を伝えてほしい。

(2) その他

(本田委員)

- ・傍聴者も意見してもよいのではないか。この会を見られて、意見がある方は、最後に言われてもおかしくないと思う。それを抑えるようなことは良くない。

(広島市)

- ・この会は、協議会委員の方の意見を聞く場である。委員の発言に対する賛否などを述べられるのは支障になるため、傍聴者の意見は差し控えさせていただいている。

(本田委員)

- ・それは市が決めることなのか。ここで皆がよければいいのではないか。

(広島市)

- ・傍聴者の意見は差し控えさせていただきたい。

(徳弘座長)

- ・今日はいろいろな意見が出るので、住民だけで意見交換する場を設けたい。

(中村委員)

- ・7人でやるか、早急に検討してやっていなければいけない。まとめたものを持って、行政と話をしていかないと。両方が言いっ放しになっている。

(徳弘座長)

- ・傍聴の方も、今日は参考になった話もあると思う。この会を踏まえて、住民だけで会合を開くということでどうか。

(瀬戸口委員)

- ・これからも継続して協議していく。